

芸術科（書道）学習指導案

指導者

- 1 履修単位数 2 単位
- 2 実施日時 令和7年11月11日（火）第5時限
- 3 学 級 HR（ 名）
- 4 使用教科書 「書道Ⅰ」（光村図書）
- 5 単 元 名 漢字の書 行書『蘭亭序』～タブレットを活用した書法探究～
- 6 単元設定の理由

芸術科書道では、生徒が感性を働かせ、表現と鑑賞の相互関係を図りながら能動的に学習を深めていくことが求められている。これまで私が行った授業では、生徒は授業者による説明、運筆の示範、教科書の記載内容など、提示されたものを中心に理解しようと試みる。しかし、受動的な学習では、知識や技能を語句として認識する表面的な理解にとどまり、実感的な理解にともなった知識や技能として定着していないように感じる。

そこで、これまで学習してきた楷書と比較して、より太細の変化や点画の連続、運筆の遅速など多くの要素が複合して成り立っている行書の学習を通して、『蘭亭序』や『風信帖』の書法を効果的に表現するための方法を主体的に考え、探究の成果を他者に説明することで、古典の書風についての実感的な理解を目指したいというねらいのもと本単元を設定した。

- 7 単元の目標
 - ・書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解し、古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能や古典の線質・字形や構成を生かした表現の技能を身につける。（知識及び技能）
 - ・古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し、作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。（思考力、判断力、表現力等）
 - ・自身の表現の意図に基づく表現、書体や書風に即した表現の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。（学びに向かう力、人間性等）
 - ・書のよさや美しさを感じ、鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。（学びに向かう力、人間性等）
- 8 単元の評価規準
 - ・書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解し、古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能や古典の線質・字形や構成を生かした表現の技能を身につけている。（知識・技能）
 - ・古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し、作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。（思考・判断・表現）
 - ・自身の表現の意図に基づく表現、書体や書風に即した表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。（主体的に学習に取り組む態度）
 - ・書のよさや美しさを感じ、鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

9 指導と評価の計画

次	学 習 活 動	評価規準・評価方法
第一次 (10 時間)	○『蘭亭序』の特徴を分析・共有し、相互評価により、表現の向上を図る。 ・「天朗」を臨書し、自己分析する。 ・「氣清」を臨書し、互いの作品を評価・分析する。 ・班員に探究した臨書の要点を伝え合い、自分ができたことを振り返る。（本時8／10）	〔思考・判断・表現〕 授業ワークシート (MetaMoJi Classroom)・発表 〔知識・技能〕 作品
第二次 (2 時間)	○『風信帖』の特徴を分析的に捉え、具体的な根拠を示しながら、自分の意見をまとめる。 ・「風信雲書」を臨書し、相互評価、自己評価を行う。	〔主体的に学習に取り組む態度〕 授業ワークシート (MetaMoJi Classroom)・作品

第三次 (2時間)	○これまで学習した行書の古典を踏まえて、創作する。 ・学んだ古典の特徴を踏まえて、半紙に創作する。	[思考・判断・表現] 授業ワークシート (MetaMoJi Classroom) ・作品
--------------	--	---

10 本時の目標

『蘭亭序』の書法を探究し、古典に基づく基本的な用筆・運筆の表現技術の向上を図る。

11 本時の展開

時間	学 習 活 動	指導上の留意点	学習活動における 具体的評価規準	評価方法
導 入 (5分)	○前時までの学習を振り返り、本時の活動を確認する。	・これまで探究してきた『蘭亭序』の特徴や要点を確認させる。		
展 開 (35分)	○前時に探究した臨書の要点をもとに、用筆、運筆、字形、全体の構成などを再度確認し、他者との共有・意見交流を行う。	・他者の作品や意見を認め合い、尊重する姿勢で活動するよう働きかける。 ・探究発表をもとに、お互いによりよい制作に繋げるよう促す。		
	それぞれが探究した臨書の要点を班で発表する (MetaMoJi Classroom)			
	○作品を制作する。	・意見交換が活発でなかった班は、他の班の要点を参考にし、注目すべき要点を意識して制作させる。	「技能」 ・古典に基づく基本的な用筆 ・運筆の技能や古典の線質 ・字形や構成を生かした表現の技能を身につけている。	観察 作品
まとめ (10分)	作品の振り返りを行う (MetaMoJi Classroom)			
	○自己評価と振り返りをまとめる。	・本時の学習を通して習得した知識や技能、学習の中での思考・判断の過程、学習の中で働かせ広げた感じ方や捉え方、考え方について改めて確認させる。		

12 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨書の要点を踏まえて、班員に適切に筆遣いや字形の構成を伝えることができています。 ・ 探究した要点をもとに臨書をして、更に新たな発見や気づきに注目することができています。
-------------------	--

「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導・手立て	<ul style="list-style-type: none">・ 臨書の要点を踏まえて書きにくい生徒には、再度範書を見せたり、注目してほしい箇所を個別に指導したりする。・ 意見交換が活発でなかった班は、他の班の要点を参考にし、注目すべき要点を意識して制作させる。
---------------------------------	---